

日本教授学習心理学会

(第3号通信 第12回年会プログラム)



日本教授学習心理学会 第12回年会

**7月9日・7月10日
山梨大学甲府キャンパス**

第 12 回年会の開催にあたって

会員の皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

さて、来る 7 月 9 日・10 日に、山梨大学甲府キャンパスにおいて日本教授学習心理学会第 12 回年会を開催する運びになりました。短い会期ではありますが、充実した研究交流の場になることを願っております。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

2016 年 5 月

第 12 回年会準備委員会 委員長 進藤聡彦

I. 会場

山梨大学甲府キャンパス Y 号館（総合研究棟） 〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37

（最寄り駅は JR 甲府駅です。Y 号館（総合研究棟）は、甲府駅から歩いて左側にあり、正門（北側の門）から入っていただくと建物の外壁に「山梨大学・放送大学」と書かれています）

II. 交通手段

電車・バス

新宿 ⇄ 甲府駅

電車 JR 中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で甲府駅下車

バス 新宿駅バスターミナルにて乗車し、甲府駅下車

名古屋 ⇄ 甲府駅

電車 JR 中央本線 塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、甲府駅下車

電車 東海道新幹線・JR 身延線（静岡駅経由）/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、甲府駅下車

バス JR 名古屋駅前バスセンターより乗車し、甲府駅下車

甲府駅 ⇄ 甲府キャンパス

バス 「甲府駅北口」2 番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約 5 分、
「山梨大学」下車

（土日のため本数が少ないのでご注意ください。http://yamanashikotsu.co.jp/jikoku/jikoju03frame.htm）

徒歩 甲府駅北口より武田通りを武田神社に向かって北上、徒歩約 15 分

タクシー 1 ～2 区間

自動車（東京 ⇄ 甲府キャンパス）

中央自動車道「甲府昭和 IC」で下りて、一般道を北東の方角へ国道 20 号線またはアルプス通り経由で IC から約 20 分（駐車スペースが少ないので、なるべく避けて下さい）

III. 受付

1. 年会期間中は参加章(所属・氏名が記載されたもの)をお付け下さい。
 2. 参加費を前納された方は受付にお名前をお申し出になり、予め送付された参加章をお付け下さい。
 3. 会員の方で参加費を前納されていない方、および非会員の方で臨時に年会に参加される方は「参加申込用紙」に必要事項をご記入の上、参加費（一般 7,000 円・大学院生 4,000 円・学部学生 2,000 円）を添えて受付にお申し込み下さい。参加章と発表論文集などをお渡しします。なお、受付時間は両日とも 9 時 30 分～14 時 00 分です。
- * お荷物をクロークにお預けになる方は、受付時にお申し出下さい。お荷物とお引き換えに番号札をお渡しします。クロークは Y 13 室です。
- * 9 日（土）の夕刻より行われる情報交換会について受付時にご案内します。当日参加をされる方は、

受付時に情報交換会参加費（一般 4,500 円・大学院生と学部学生 3,500 円）をお支払い下さい。

IV. 会場関係

受付・発表・講演会・総会はすべてY号館(総合研究棟)の1階になります。

1. 発表会場・講演会会場・各種会議場

- (1)発表会場A：Y 11 室 (2) 発表会場B：Y 12 室 (3)講演会：Y 15 室
(4)会務総会：Y 15 室 (5)理事会および編集委員会：Y号館2階会議室

2. 休憩室

休憩室は特に設けませんが、Y号館1階がロビーになっております。なお、喫煙は指定の喫煙所でお願いいたします。

3. クローク (Y 13 室)

9日(土)は9時30分～18時30分まで(情報交換に参加の方は、その前までにお受けとり下さい)。
10日(日)は9時30分～15時10分まで。

4. 情報交換会

9日(土)の18時40分～20時30分まで、山梨大学大学会館にて開催します。

5. 託児所

ご用意できませんので、ご了承下さい。

6. 駐車場

ご利用の方は、事前に nenkai@japttl.org までお問い合わせ下さい。

7. 本部

学会事務局および年会事務局はY 14 室です。

V. 講演会

7月9日(土)の16時40分～18時20分まで、堀 哲夫氏(山梨大学理事・副学長)による『学習の変容と授業改善』という題目の講演会があります。奮ってご参加下さい。

VI. その他

1. 昼食について

大学構内にコンビニ(ローソン)、また大学から歩いて5分以内にコンビニ(セブンイレブン)、中華料理店などがあります。今大会ではお弁当の用意はいたしませんので、各自ご用意下さい。

2. その他

会期中にご不明な点は年会準備委員、スタッフまでお尋ね下さい。

VII. 研究発表について

1. 各発表に割り当てられた時間は、発表 15 分、討論 15 分の計 30 分です。時間内に発表と質疑を終了して下さい。「発表取り消し」があった場合には、それ以降の発表を繰り上げます。
2. 発表者が欠席した場合には、「発表取り消し」になります。ただし、連名発表者がいる場合には、連名発表者が発表を代行できます。受付までご連絡下さい。
3. 当日、配付資料がある場合には各自で 50 部程度ご用意の上、会場の所定の場所に置いて下さい(会場に係員は配置していません)。
4. 会場ではパソコン (Windows8・Microsoft PowerPoint 2013) とプロジェクタが利用可能です。使用予定の方は少し早めに会場にお越しの上、パソコンにデータを移し、不具合がないかご確認下さい。また、DVD を使用される方は事前に nenkai@japttl.org までお問い合わせ下さい。

講演会案内

演題：『学習の変容と授業改善』

講師：堀 哲夫氏（山梨大学理事・副学長）

学歴 筑波大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学

職歴 日本学術会議教科教育学研究連絡委員会委員

文部科学省学術審議会専門委員

国立教育研究所客員研究員 他

単著書『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA—一枚の用紙の可能性—』東洋館出版社、2013

『学びの意味を育てる理科の教育評価』東洋館出版社、2010

『理科教育学とは何か—子どもの科学的概念の形成と理解研究を中心にして—』東洋館出版社、1994、 他多数

講演要旨

授業改善の目的は、学習者の資質・能力を高めるためである。そのためには、学習前・中・後における学習状況を適切に把握し、学習において何が起きているのか、学習過程を可視化することが重要になってくる。OPPA（One Page Portfolio Assessment）は一枚の用紙（OPPシート）を用いて、学習者が考える授業の最重要点を学習履歴として書かせることによって学習状況を把握し、それに対して教師が授業改善を行っていく方法である。OPPシートによる診断的・形成的・総括的評価、学習者と教師による内化・内省・外化、学習履歴全体を振り返る自己評価など、OPPAの構成要素、具体例、授業改善との関わりなどについて具体的に提案したい。

日本教授学習心理学会第12回年会日程表

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
⇒ 目 目	9:30 受付	10:00 ~ 12:30 個人発表1 (Y-11 : 5件) 個人発表2 (Y-12 : 5件)	12:40 ~ 13:50 理事会 (会議室)	14:00 ~ 16:30 (16:00) 個人発表3 (Y-11 : 4件) 個人発表4 (Y-12 : 5件)	16:40 ~ 18:20 講演会 (Y-15)	18:40 ~ 20:30 情報交換会 (大学会館)					
	⇒ 目 目	9:30 受付	10:00 ~ 12:30 個人発表5 (Y-11 : 5件) 個人発表6 (Y-12 : 5件)	12:40 ~ 13:50 編集委員会 (会議室)	14:00 ~ 15:00 会務総会 (会議室)						

研究発表スケジュール

●個人発表1 (7月9日 10:00~12:30) 発表会場 A (Y11)

司会 吉國秀人(兵庫教育大学)・工藤与志文(東北大学)

1. 素朴概念へのゆさぶりが科学的概念の獲得に及ぼす効果
○鈴木もゆ(公益財団法人仙台ひと・まち交流財団/上杉児童館)・平 真木夫(宮城教育大学)
2. 生活科における「命のつながり」についての授業開発 -化石を用いた授業実践を通して-
○吉國秀人(兵庫教育大学)・黒岩 督(兵庫教育大学)・#小倉 誠(南九州市立知覧小学校)
3. 小3 理科授業「物の重さをくらべよう」に関する実践研究(1) -授業の概要と事前認識について-
○佐藤誠子(石巻専修大学)・蛭名正司(修紅短期大学)・工藤与志文(東北大学)
4. 小3 理科授業「物の重さをくらべよう」に関する実践研究(2) -事後評価課題に関する結果と考察-
○蛭名正司(修紅短期大学)・佐藤誠子(石巻専修大学)・工藤与志文(東北大学)
5. 小3 理科授業「物の重さをくらべよう」に関する実践研究(3)-知識操作に着目した授業過程の分析-
○工藤与志文(東北大学)・蛭名正司(修紅短期大学)・佐藤誠子(石巻専修大学)

●個人発表2 (7月9日 10:00~12:30) 発表会場B (Y12)

司会 大家まゆみ(東京女子大学)・斎藤 裕(新潟県立大学)

1. 小中接続期の算数・数学の図表の活用に対する動機づけと問題解決方略の関係
大家まゆみ(東京女子大学)
2. 算数の分数除の文章題における児童の理解とその順序性について
ファウラみどり(広島大学大学院)
3. 「比例」関係理解を基盤とした図形(幾何)学習支援の試み -大学生を被験者として-
斎藤 裕(新潟県立大学)
4. 「授業のまとめ」における談話過程の検討 -協同を通じた解法レベルの変化に着目して-
○伊藤栄治(秋田県立男鹿工業高等学校)・河野麻沙美(上越教育大学)
5. 微分を視る教授学習過程 -授業内容の構想とその効果-
梶原郁郎(愛媛大学)

●個人発表3 (7月9日 14:00~16:00) 発表会場 A (Y11)

司会 後藤 聡 (北海学園大学)・小口祐一 (茨城大学)

1. モニタリングを促進する小学校社会科授業の開発

下野哲宏 (兵庫教育大学大学院・姫路市立旭陽小学校)

2. 小学校社会科授業における「類推」に関する実践研究

石田 誠 (兵庫教育大学大学院・明石市立沢池小学校)

3. 一桁ひき算の同数効果 –被減数についての検討–

後藤 聡 (北海学園大学)

4. 全国学力・学習状況調査における児童の反応とその特徴 –算数における割合の理解に焦点をあてて–

小口祐一 (茨城大学)

●個人発表4 (7月9日 14:00~16:30) 発表会場B (Y12)

司会 作間慎一・荒井龍弥 (仙台大学)

1. 高校生を対象とした『走れメロス』の謎解き読み授業 (1) –授業の目標、方法、『走れメロス』の謎解き読み、教授方略–

○作間慎一・佐藤 淳 (北海学園大学)・舛田弘子 (札幌学院大学)・荒井龍弥 (仙台大学)・

佐藤大祐 (旭川藤女子高等学校)

2. 高校生を対象とした『走れメロス』の謎解き読み授業 (2) –学習者、評価課題、事前課題の結果と分析、授業形態–

○佐藤 淳 (北海学園大学)・舛田弘子 (札幌学院大学)・荒井龍弥 (仙台大学)・作間慎一・

佐藤大祐 (旭川藤女子高等学校)

3. 高校生を対象とした『走れメロス』の謎解き読み授業 (3) –授業の経過、本授業の工夫と課題–

○舛田弘子 (札幌学院大学)・荒井龍弥 (仙台大学)・作間慎一・佐藤 淳 (北海学園大学)・

佐藤大祐 (旭川藤女子高等学校)

4. 高校生を対象とした『走れメロス』の謎解き読み授業 (4) –事後の回答結果の分析と考察–

○荒井龍弥 (仙台大学)・作間慎一・佐藤 淳 (北海学園大学)・舛田弘子 (札幌学院大学)・

佐藤大祐 (旭川藤女子高等学校)

5. 落語を取り入れた授業の効果 –インタラクティブな関係性を目指した取り組み–

小田雄仁 (山梨県立甲府東高等学校)

●個人発表5 (7月10日 10:00~12:30) 発表会場 A (Y11)

司会 石島恵美子 (茨城大学)・宮田佳緒里 (兵庫教育大学)

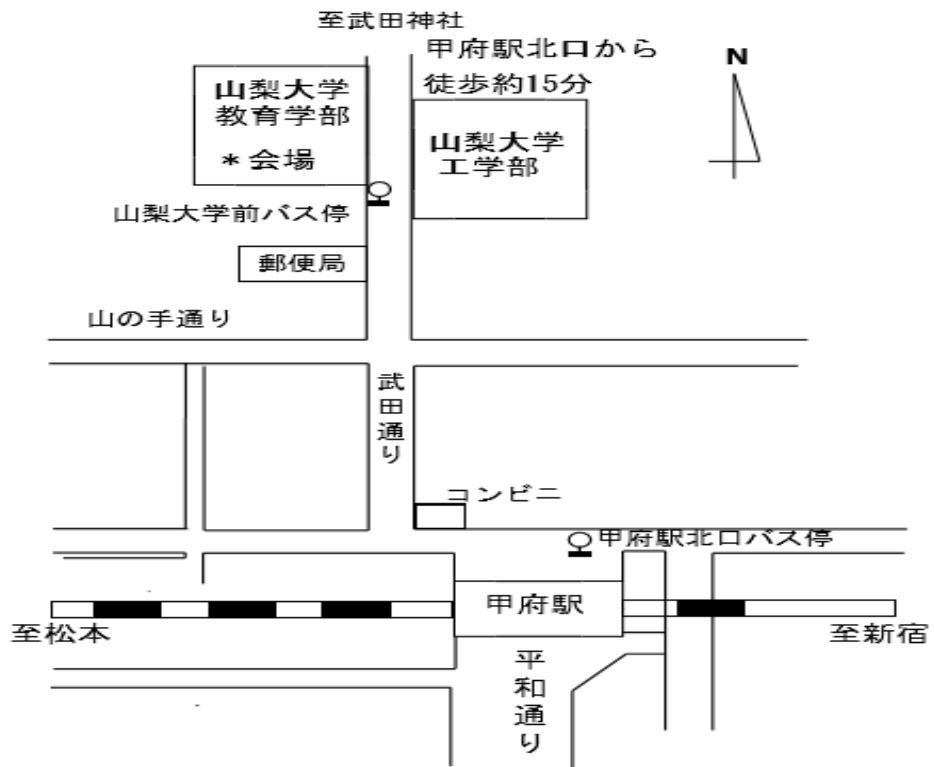
1. グループワークが英語学習者の不安に及ぼす効果
飯村文香 (茨城大学)
2. 大学教養英語における CAN DO リストの活用に関する研究 – 高大接続とシラバス評価への応用 –
野村幸代 (茨城大学)
3. 模擬授業における授業実践者と参観者の学びの検討
石島恵美子 (茨城大学)
4. モデル化過程を組み込んだ教育心理学の授業の有効性と課題
宮田佳緒里 (兵庫教育大学)
5. 廃墟映像の視聴で生じる情感・意味づけ・想像
立木 徹 (茨城キリスト教大学)

●個人発表6 (7月10日 10:00~12:30) 発表会場B (Y12)

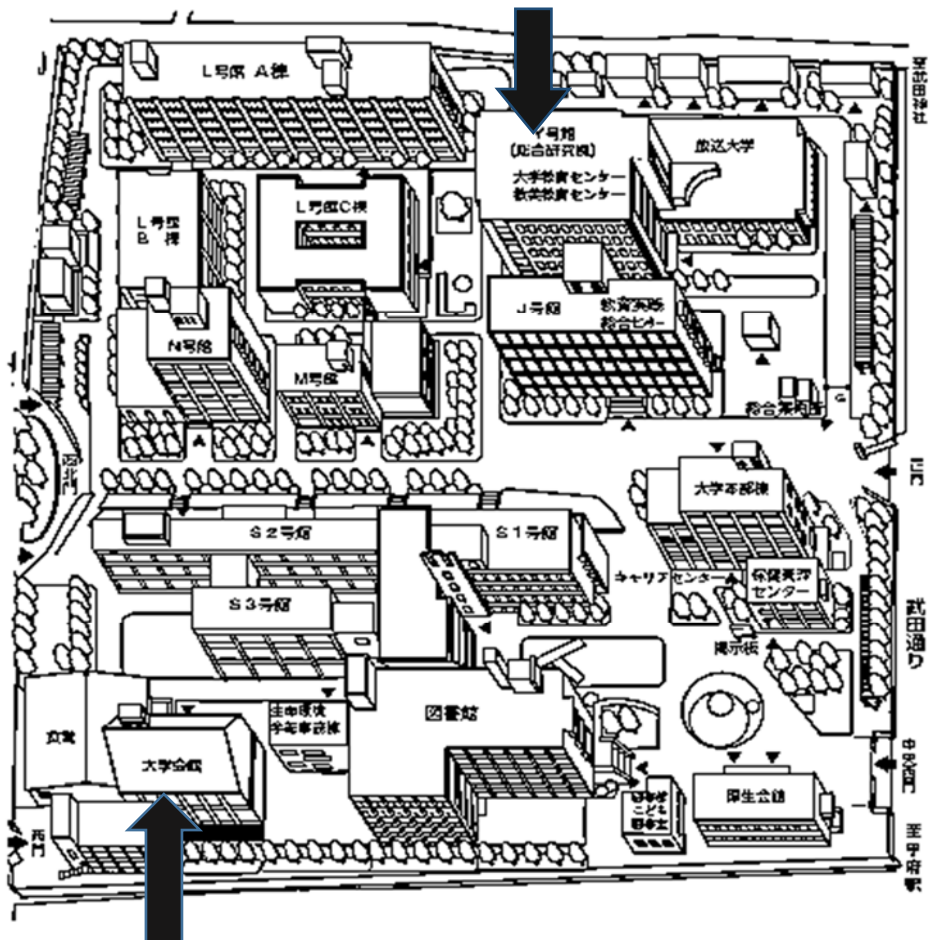
司会 佐藤康司 (盛岡大学)・西林克彦 (東北福祉大学)

1. 認知的受動性と批判的思考態度との関連
佐藤康司 (盛岡大学)
2. 中国小学校教師のリーダーシップに及ぼす教育政策の影響
○金 明汶 (関西大学大学院)・田中俊也 (関西大学)
3. 知識システムの構築
西林克彦 (東北福祉大学)
4. 基本的心理欲求充足度測定尺度開発への予備的研究 – 小学3年生ゴール型ゲームを対象として –
葉内 要 (兵庫教育大学大学院)
5. 教養番組に見られた“代理的知識操作”型発問
大道一弘 (常磐大学)

アクセスマップ



発表会場 (Y号館・総合研究棟)



情報交換会会場 (大学会館)